

- This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene... -

### feature interview

# DJ TAIKI

長年に渡って培ってきた経験に勝るものなし。“NO DOUBT”をHARLEMのオープンから支え続ける、DJ TAIKIのインタビューを要チェック!

#### ■最近の“NO DOUBT”はどうですか?

最近はお客さんがオープンな感じで遊んでる気がする。HARLEMってHIP HOPの大箱っていうイメージがあると思うけど、音楽的にHIP HOPを軸としたダンスミュージック、クラブミュージックみたいな感じになってきているかな。ファッション的にも誰が見てもB-BOYっていうより、色んなお洒落をしている人が増えたよね。もちろんHIP HOPを聴きたいからHARLEMに足を運ぶんだろうけど、コアにHIP HOPを聴いてるかというのと、そこまでじゃないと思うのね。大体の人はHIP HOPやREGGAEのビートが好きで、なおかつ遊ぶのも好きなんだろうね。

やり方次第だと思うんだけど、みんなが思ってるよりはお客さんから反応も返ってくるし、ある意味純粋だと思う。あんまり音楽を知らなくてもHARLEMに来て騒いでるってお客さんも多いから、そういう人たちが聴いたことがある曲と聴いたことがない曲とをバランスよく混ぜると、知らない曲でもちょっとずつ覚えていくから、2、3週間後には「この曲知ってる知ってる」ってなって盛り上がりやすくなるからね。そういうのって重要だと思うし。

#### ■クラブプレイに関しては?

いつHARLEMに来て同じ曲がかかっているという感じになると、未来を感じなくなるから、新しく刺激的なモノをどんどん交ぜながらかけようって意識してる。あと、流行ってからかけるんじゃなくて、DJが自分達から発していくのが必要不可欠だね。流行りを作るとか、アメリカで流行ってなくても自分が好きでかけていくうちに、実際にその曲が“NO DOUBT”で流行ったってのもあるし。お客さんは、やっぱり刺激を求めに来る人が多いと思うので、新旧織り交ぜて、毎週違うようなテンションにはもっていかうってやってますよ。レギュラーで毎週ちゃんとしたパーティーをやっていくためには、色んなことをやらなきゃいけないし、パーティーDJってだけでいいなら自分のパーティールーティーンだけ披露すればいいけど、そんなの毎週やられたらお客さんは飽きちゃうよね。

#### ■長年DJを続けてきているTAIKIさんから、DJを含め音楽で生活していこうと考えている方達へ、アドバイスがあればお願いします。

偉そうなことは言えないけど、好きだから何かを続けているって人にとっては、その「好きだから」っていう度合いが大事だね。自分もアルバイトしながらDJして全然お金がなかった時から、服やスニーカーよりもレコード買って、そのレコードを家で聴いてるのが好きでやり続けてきたわけですよ。もうね、やり続けるしかないよね。DJに関して言えば、レコードを買っただけで満足しないで、ひたすら練習して自分なりのMIXを作り上げるのが必要な。腐らないでひたすらやりまくるしかないと思うよ。苦勞があっても当たり前だし、楽しくやるだけなら趣味だからね。

あとは、皆と一緒にダメだね。かといって奇をてらい過ぎてダメ。ベーシックにちゃんとできて、その中に「こんなモノも入れてくるんだ」っていうのが欲しいよね。当たり前の外さないプレイをしても、間違いないかもしれないけど、面白みに欠けちゃう。「外さない」のは確かに大事だけど、オレは少しくらい外して

もいいと思うんだよね。でも、外したあとにちゃんと取り戻さないとダメだけど(笑)。

多分、若手のDJの人たちって、イメージが固まってると思うんだよね。「HIP HOPのクラブはこういうものをかけなきゃいけない」みたいな。安全パイで固めちゃうというか、無難なところでやってるというか。色んなレコードも持っているはずなんだから、もっともっとチャレンジして欲しいよね。自分たちで自分たちの世界観を閉じ込めちゃうのかなって思ってる。だからそうはならないようにHIP HOPを土台に持っておきながらもっと広めに見て欲しいなって思ってるかな。ダンスミュージック、クラブミュージックってのが基本にあって、核となるものがHIP HOPで、そうであればいいと思うんだよね。

例えば、HIP HOPのDJがGARAGEかけたりHOUSEかけたりしてもHOUSEのDJがかけると全然違うと思うんだよね。そこにはHIP HOPらしさが出てくると思うし。そういう部分で聴いて面白い部分もあると思うし。お客さんも大味なHIP HOPの曲で盛り上がりたいたいのも解るんだけど、せっかくなら一晩あるんだから、それだけじゃつまらないと思うし、ディスコだったりクラブの歴史が30年ある中で、過去には30年分のダンスミュージックのストックがあるわけだから、それを全く使わないのはもったいない話だから。それをちょこちょこ混ぜつつやっていくのがいいんじゃないかな、と思うんだけどね。

今は、昔みたいに1曲1曲変わるたびにワーワー盛り上がる時代じゃなくなってるし、クラブミュージックに対してもっと耳が肥えてきているんだと思うし。だからDJもその先をいって進化していかなくちゃいけないと思う。HIP HOPのDJは上手いから、MIXだったりそういうものをちゃんとやって、クラブを成熟させていくことをしないとイケないと思うし、そのためには過去ものと新しいものをどんどんMIXしてやるってのが、ある意味一番スマートなのかなって。

#### ■DJ機材の進歩について。

コンピューターを使ってプレイするDJも増えてきているけど、正直言って「使いたい人は使ってください」って感じかな。レコードを持たずに、曲をたくさん持ち歩けるから、移動は楽だね。でも、自分の中ではどう聴いてもアナログの方が音がいいので、DJとして音が悪いと思うモノを使って、お客さんの前でプレイするのはどうかと思う。せっかくなら遊びに来てくれるんだから、自分の中で音がいいと思うアナログを使ってプレイしたいっていう所だけかな。

普通、家ではあまり大きい音で音楽聴けないでしょ。せっかくならクラブのデカイ音を聴いて遊ぶなら、オレはいい音を聴かせてあげたい。自分の都合で「音悪いけど、便利だから使わせて」っていうのは納得がいかない。音質の部分がクリアになれば、ひょっとしたらコンピューターを使うかもしれない。でも、コンピューターの画面見ながらプレイするのは性に合わない気がする。コンピューターとか得意そうに見られるけど、意外とアナログな人なんだよね。「シンセなんかでもボタンで操作するよりもツマミにして下さい」って感じ(笑)。

#### ■トラック制作について。

制作に関しては、DJとはまた違うところで刺激を受けることが多いから、もし機会がある



んだったら色んな人とやってみたいかな。例えば、トラック制作の段階から「こういうテーマでこういう風に」ってのが明確に見える人とやれば、イメージがこっちにも伝わってくるから作りやすい。でも、誰とでもやってみたいってのはある。色んなラッパーとスタジオに入ると、その度に刺激を受けることもあるしやる気にもなるし。

#### ■日本の音楽シーンについて。

CDが売れなくなったってみんな言うけど、ハードを作ってる段階でデジタルはコピーされるものだってことは分かっているから、デジタルになっちゃった以上どんどん売れなくなって当たり前だと思うんだよね。コピーされてフリーでダウンロードする人が増えるわけで、そうなると物を買う人もどんどん減るし、特に若い子たちでお小遣いが少ない子たちなんてCDを買おうって人も少なくなってくるだろうし。この先どうなるんだろうっていう不安はあるよね。

例えば、日本の産業の中で電化製品にしても、日本の工場で作った方が売り値も安くなくなるから消費者もそれに飛び付くわけじゃない。買う側は安い方がいいわけだから。音楽もそれと一緒に、買う側が安い物を求めていくうちに結局タダになったか、みたいな感じ。違法ダウンロードなんかもあるし、結局音楽を買わなくなっちゃったのかなって思うよね。買ったとしてもアルバム単位じゃないでしょ。みんなヒット曲だけ欲しいからコンピレーションとかそんなのばかり買って、「このアーティストが好きだからアルバムで聴きましょう」って人が本当に減ったと思うんだよね。しかもボタン1個で飛ばせちゃうからね。アナログ時代は、LPを買ってきて片面に針を置いたら最後まで聴いちゃうじゃん。不便だったけどある意味良かったのかなって思うよね。

#### ■HIP HOPに限ると?

日本とアメリカとは全く別物だね。日本で流行る曲って、基本にあるのはカラオケで歌えるってことでしょ。でもコアにHIP HOPをやっている人の曲って絶対に歌えないじゃん。でも、テレビに出てくるHIP HOPグループって歌えるじゃん(笑)。そこがしんどい所と言うか、どっ

ち側に寄るかってことだよな。「そんなの関係ねーよ」「自分たちはこういう音が好きだからこういう音楽やります」って言ってやっていくべきなのか、もう割り切って売る為にそういうものを作っていくのかだよな。一番賢いのは、シングルは売る為にPOPS寄りの歌えるものを作っておいて、アルバムでは「ホントはオレはこういうものをやりたいんだよね」って好きな事をやるっていうのなのかな。でも難しいよね。

オレもトラック作る時に「こういうの作れば売れるだろうから」なんて考えてないし、ラッパーとかシンガーじゃないから純粋にトラックメーカーとしてしか聴いてないし、どちらかと言うとクラブDJ寄りな耳で聴いてるよね。あくまでもオレの中でのかっこいいビート、かっこいいトラックだから、それが世間一般的にウケる曲かって言ったらそうではないと思うし。アメリカで今凄く売れているJUST BLAZEとかSWIZZ BEATZとかのプロデューサーが日本人とやったら凄くヒットするかって言ったらそうも思えないし。だからHIP HOPってところで考えて売れようと思うと、相当ヒネらないと難しいんだと思うよね。

それが売れたか売れないかってのは別にして、自分がいいと思う作品がいいんじゃないの、ってとこに行き着いちゃうんじゃないのかな。音楽の中でも特にHIP HOPを作っている人にとっては、今が一番面白い時期じゃないのかなって思うね。

#### ■読者へメッセージをお願いします。

HARLEMは9年以上やってきて、DJはもちろんスタッフも年々成熟していった気がするんだよね。HIP HOPを軸としてREGGAEしかりDANCE CLASSICSしかり、クラブミュージックをHIP HOPのDJが消化してやっていくんで、「HARLEMってHIP HOPが好きで色んな人に遊びに来て欲しい」。何度か通ってもらえれば、絶対に「こんなこともやるんだ」っていうサプライズもあるから、先入観やイメージだけで決めずに“NO DOUBT”に来てもらいたいね。あなたのイメージよりも間口を広げてお待ちしております(笑)! ☺